

連峯堂 彩り 春号

RENPOUDO'S COLLECTION SPRING.

HP



Instagram



奥田連峯堂

TEL:075-561-3655

FAX:075-525-1148

営業時間：11時 - 18時

定休日：毎週水曜

〒605-0073 京都市東山区祇園町北側244

<https://www.renpoudo.com>

renpoudo@mth.biglobe.ne.jp

1.

祥瑞 三足香炉

中国 明時代（17世紀）

径8cm 高さ9cm

高台と三つ足が付いた香炉です。
高台は角福の銘があります。
胴には三つの違う文様が描かれています。
鍍金の火屋が付いています。
箱の側面には貼札が貼られています。



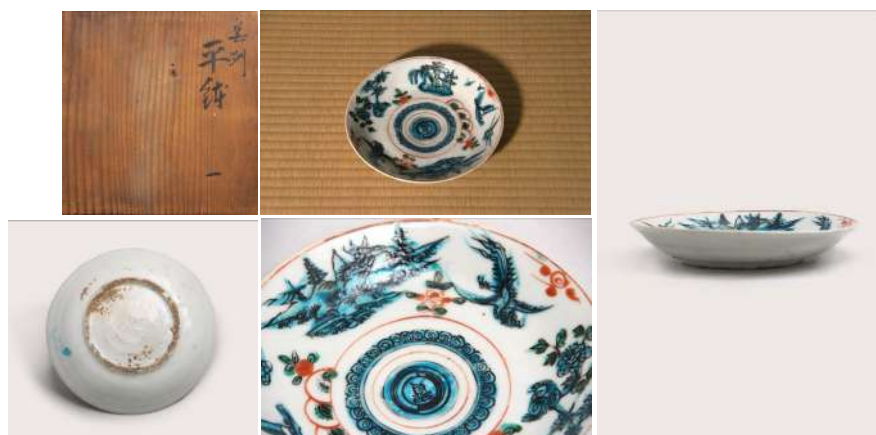
2.

呉須赤絵平鉢

中国 明時代（17世紀）

径21cm 高さ3.5cm

見込みには「寶（宝）」の字が書かれ、それを囲うように鳥、草花や建物が描かれています。縁に窯キズ、見込みと裏側の側面に釉ハガレが見られます。



3.

鉄葉辰砂花扁壺

河井 寛次郎

共箱

昭和

口径6cm 胴径13cm×20cm 高さ16cm

光沢のある黒色の地に、辰砂釉の赤色、呉須の青色、鉄釉の茶色で花文様が描かれています。両面に描かれています。



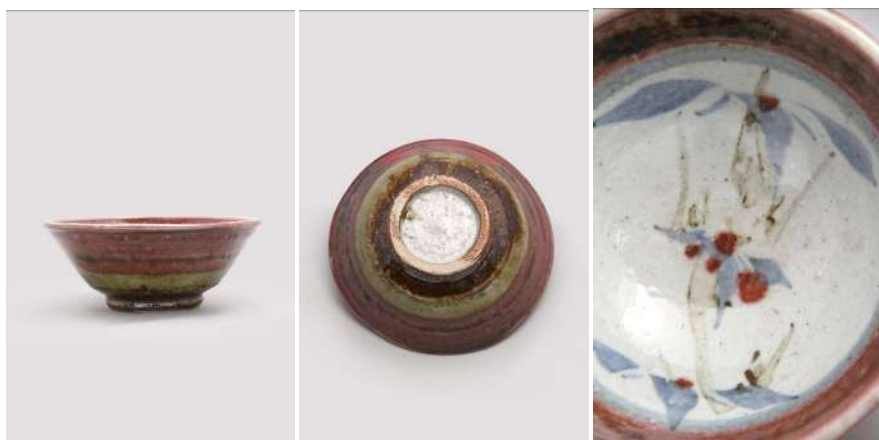
4.

笹鉢

河井 寛次郎

共箱
昭和
径18.5cm 高さ7.5cm

厚手で少し小さめの鉢です。
口縁には辰砂釉の赤色が施釉されています。
見込みには貫入が見え、その上に笹の絵が描かれています。



5.

窓絵茶碗

濱田 庄司

共箱
昭和
人間国宝
径14cm 高さ7cm

側面の2か所に、庄司の代表的な文様である糖黍文様が窓絵で配されています。

箱には初窯と書かれており、高台には「田」の印が押してあります。

庄司は、通常、作品に印を押しませんので、珍しいことです。



6.

三彩釉線彫大鉢

舩木 研兒

共箱

昭和 - 平成

径49cm 高さ12cm

見込みの三彩釉の色味が大きな花を表現しているようで、奥行きを感じる作品です。

島根県松江市の宍道湖畔に舩木窯はあります。江戸時代より170年の歴史を持ち、その五代目である舩木研兒は、早くから父・道忠を手伝いながら、浜田庄司やバーナード・リーチより学びました。



7.

蓬萊掛分壺 百花

清水 卯一

共箱

人間国宝

昭和-平成

径21cm 高さ23cm

清水卯一は、石黒宗麿に師事して中国陶芸を学び、独立し、「鉄釉陶器」で人間国宝に認定されました。その後、滋賀県湖西の蓬萊山麓に移窯し、蓬萊磁・鉄耀を生み出しました。

鉄釉と白釉が掛け分けられ、「百花」の文字が書かれています。指頭で気分の赴くままに、全身の気迫を指先に込めて書きました。

高台に「卯一」の描銘があります。



8.

手吹飾笥 花の舞

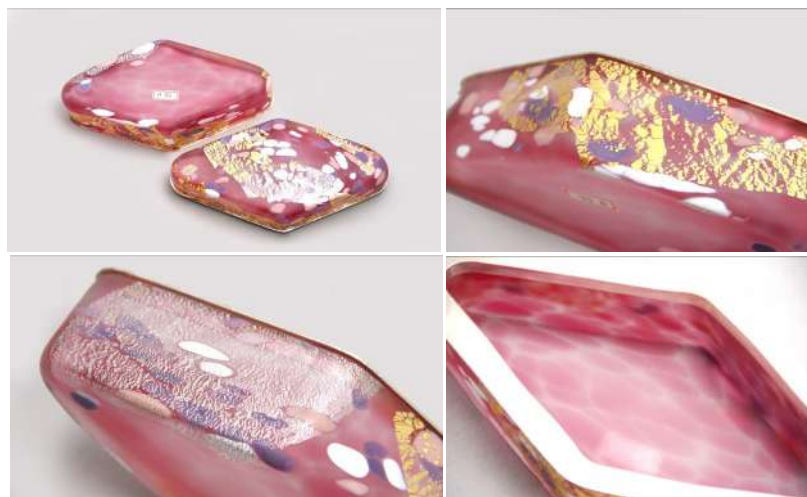
藤田 喬平

共箱

昭和

径20cm×10cm 高さ8cm

「花の舞」というタイトルが付けられており、
花が舞い散る様子を表現した作品です。



9.

青釉金彩紐飾花器

加藤 卓男

共箱

昭和 - 平成

人間国宝

口径22cm×17cm 胴径26cm×27cm 高さ21cm

加藤卓男は、古代ペルシア陶器の斬新な色彩や独創的な造形、釉調に魅力を感じ、西アジアでの長年の発掘研究を経て、滅び去った幻の名陶ラスタースターの復元をはじめ、青釉、三彩、ペルシア色絵など、高い芸術性を持つ異民族の文化と日本文化との融合に成功しました。

全体的に鮮やかな発色の美しいペルシャブルーの青釉が使われ、黒色で草花が描かれています。



10.

草文方壺

田村 耕一

共箱

昭和

人間国宝

口径6.5cm 胴径16cm 高さ22cm

丸みを帯びた四方形の壺です。それぞれの胴の面に白釉に鉄釉、赤色の辰砂釉（銅彩）と緑色の青磁釉を用いて、草花が描かれています。晩年の田村耕一の特徴的な作風です。



11.

古染付 芙蓉手五寸皿 10客組

中国 明時代 (17世紀)

径14.5cm 高さ3.5cm

中国 明時代末期 景徳鎮民窯では古染付・祥瑞・南京赤絵と呼ばれるやきものが作られ、日本に渡ってきました。江戸時代初期の日本では、茶人が新奇な茶道具や飲食器を注文焼成させる風潮もあり、日本人好みの茶道具や飲食器を中国へ注文したと考えられています。

見込みには、鳥が描かれていたり、虫が描かれていたりします。少し深めの膾皿の形をしています。口縁に小さなホツ、見込みにヒツッキや高台にジカンが見られます。



12.

染付牛図向付 10客組

14代 永楽善五郎 (得全)

共箱

明治

径13.5cm×13.5cm 高さ6.5cm

菱形で、胴部分は少し丸みがあり、そこに三つ足が付く向付です。

見込みには牛が描かれています。角には茶色の鉄釉を掛けてありアクセントになっています。

縁と高台に窯キズがあります。



13.

手吹カンナ小皿 5客組

藤田 喬平

共箱

昭和

径11.8cm 高さ2.8cm

藤田喬平は日本のガラス工芸の第一人者として活躍した人物になります。

手吹とは、竿で息を吹き込んで膨らませる方法で制作されています。本作品もその手吹によって手掛けられた作品になります。また、カンナというのはイタリアのヴェネツィアングラスの伝統文様のことです。



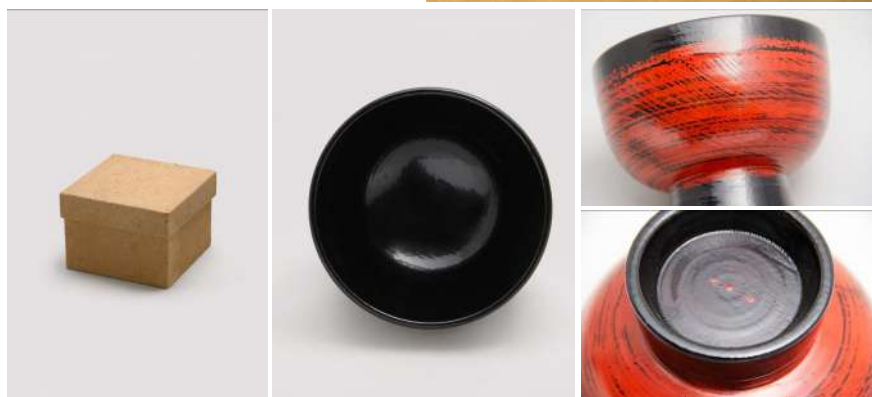
14.

外根来塗合鹿碗

角 偉三郎

径14.5cm 高さ11cm

合鹿碗（ごうろくわん）は、石川県能登町の合鹿地方でつくられたことから名付けられました。いつ頃から作られていたかなどは不明ですが、他の器に比べて高台が高い形が特徴で、室町時代より農民たちが床に置いて食事ができるように作られたと言われています。紙箱に収納されています。



15.

ぐい呑、葡萄文徳利 セット

田村 耕一

共箱

昭和

人間国宝

ぐい呑：径6.5cm 高さ4.8cm

徳利：口径3.4cm 胴径9cm 高さ12.5cm



16.

バカラ 足付グラス 2客組

昭和
径6cm 高さ7.5cm

「Beauregard」というバカラのカタログにも掲載されているモデルです。
高台にバカラのサインがあります。グラスを収納する箱はありません。



17.

赤茶碗 「彩雲」

楽 惺入

共箱

淡々斎書付

大正 - 昭和

径13.5cm 高さ8cm

赤色に、黒色とヘラで付けられた凹凸の文様が様々な表情を見せています。裏千家 淡々斎宗匠が「彩雲」とおめでたい銘を付けています。箱の蓋の甲に惺入により「赤茶碗 十三代楽吉左衛門」と書かれています。箱の蓋の裏に淡々斎宗匠により「彩雲」と書かれています。見込みに「楽」印、高台脇に十三代喜英角印があります。



18.

バカラ 金縁切子鉢

昭和

径20.5cm 高さ12.5cm

明治期にその当時の大阪の古美術商 春海商店の主人が、フランス バカラ社に特別注文しました。暖かい季節に涼しげな御茶道具を求めのお茶人のために、鉢などの懐石食器や水指などを注文しました。本作品も、その流れを汲む作品だと考えられます。切子のように胴部分が外側からカッティングされて、口縁は金を縁取っています。



19.

額 型絵染 雛道具

芹澤 銈介

芹澤長介 識シール

昭和

人間国宝

額のサイズ：縦83.5cm 横59cm



20.

太陽賛歌 森の中の二羽の鳥

三岸 節子

ガッシュ、パステル

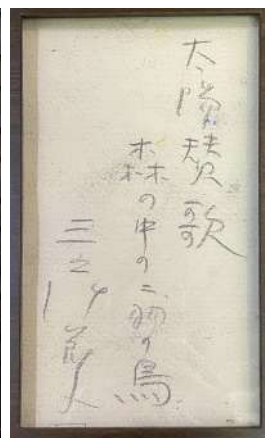
東美鑑定評価機構鑑定委員会 鑑定書

昭和

額のサイズ：縦47cm 横48.5cm

三岸節子は、力強く、情熱あふれる絵画で知られます。

三岸節子は、フランス ブルゴーニュ地方の農村ヴェロンに住み、晩年は帰国し、神奈川県中郡大磯町に自宅兼アトリエを設け、絵を描きました。



作家略歴 (五十音順)

14代 永樂善五郎 (得全)

1853 (嘉永6) 年 - 1909 (明治42) 年
仁清写し、呉須赤絵を得意とする。三井家・鴻池家の庇護を受ける。14代永樂善五郎は12代永樂善五郎 (和全) の長男として生まれました。名を常次郎、通称を善五郎、法号を守甫軒温誉良円得全、諡号を得全といひます。

角 偉三郎

1940 (昭和15) 年 - 2005 (平成17) 年
1940年、石川県輪島生まれ。15歳で沈金 (漆に細い線を彫り、そこに金を施す技法) の名人、橋本哲四郎の下に弟子入りする。1962年に修業を終えると、角は沈金技法を用いた漆のパネル、絵画風の作品の制作に取り組んだ。24歳で日展に初入選したのち17回入選、30代で日展特選となる。
1982年、角はすべての公募展から退き、初めて椀だけの個展を開く。

加藤 卓男

1917 (大正6) 年 - 2005 (平成17) 年
岐阜県多治見市生まれ。父 5代加藤幸兵衛に師事。古代ペルシア陶器の斬新な色彩や独創的な造形、釉調に魅力を感じ、西アジアでの長年の発掘研究を経て、滅び去った幻の名陶ラスター彩の復元をはじめ、青釉、三彩、ペルシア色絵など、高い芸術性を持つ異民族の文化と日本文化との融合に成功。平成7年に人間国宝に認定。

河井寛次郎

1890 (明治23) 年 - 1966 (昭和41) 年
島根県生まれ。東京高等工業学校窯業科卒後、京都市陶磁器試験場に入所。京都市五条坂に窯を築き作陶を行う。東洋古陶磁の技法による作品を制作していたが、民藝運動に関わり、実用を意識した作品に取り組むようになる。文化勲章、人間国宝、芸術院会員への推薦を辞退。

清水 卯一

1926 (昭和元) 年 - 2004 (平成16) 年
京都生まれ。昭和15年、石黒宗麿に師事。国立京都陶磁試験場伝習生を経て、京都市立工業研究所窯業部助手。その後は自宅陶房を中心に陶芸活動に専念。昭和33年、ブリュッセル万国博覧会グランプリを受賞。昭和60年、人間国宝に認定。

田村 耕一

1918 (大正7) 年 - 1987 (昭和62) 年
富本憲吉に師事。昭和28年、郷里の栃木県佐野に築窯。日本伝統工芸展などで活躍した。鉄絵の技法を基本にして独自の作風をきずき、イスタンブール国際陶芸展グランプリなど、国内外での受賞多数。51年、母校 東京芸大の教授。61年、鉄絵で人間国宝。

濱田 庄司

1894 (明治27) 年 - 1978 (昭和53) 年
神奈川県生まれ。東京高等工業学校 (現東京工業大学) 窯業科に入学、板谷波山に師事。同校を卒業後は、河井寛次郎と共に京都市立陶芸試験場にて主に釉薬の研究を行う。この頃、柳宗悦、富本憲吉、バーナード・リーチの知遇を得る。大正9年、イギリスに帰国するリーチに同行、共同してセント・アイヴスに築窯。大正13年、帰国し、沖縄 壺屋窯などで学び、その後、栃木県益子町で作陶を開始。昭和30年、人間国宝に認定。

藤田 喬平

1921 (大正10) 年 - 2004 (平成16) 年
東京都生まれ。東京美術学校で彫金を学ぶが、途中でガラス工芸に転向する。その後、イタリアで学んだ色ガラスと金箔を混ぜた飾管 (かざりばこ) で独自のガラス工芸分野を確立した。1989年 (平成元年) 日本芸術院会員、1997年 (平成9年) 文化功労者、1999年 (平成11年)、市川市名誉市民、2002年 (平成14年) 文化勲章受章。

船木 研兒

1927 (昭和2) 年 - 2015 (平成27年)
江戸時代より170年の歴史を持つ布志名焼窯元 船木家に生まれる。濱田庄司に師事し、その後、日本民芸館賞、現代日本陶芸展やサロン・ド・プランタン奨学賞を受賞する。昭和28年には、琉球政府の招聘により渡琉、作陶している。リーチの窯場にて研修。これを機に、スリップウェアと呼ばれる英国で17-18世紀頃に盛んに作られた化粧泥で

模様をほどこした品物に魅せられ、この技法を本格的に取り入れる。日本に戻り、各展覧会に出品し受賞。

三岸 節子

1905 (明治38) 年 - 1999 (平成11) 年
愛知県中島郡起町 (現・一宮市小信中島) の織物工場を営む裕福な家の十人兄弟の6番目 (4女) に生まれた。名古屋市の淑徳高等女学校 (現・愛知淑徳高等学校) 卒業後、日本画をすすめる両親を説得したうえで洋画を学ぶために上京し、本郷洋画研究所で岡田三郎助に師事する。女子美術学校 (現・女子美術大学) の2年次に編入学し、首席で卒業した。1924年に三岸好太郎と結婚し、1930年に長男黄太郎を出産するも、1934年に夫と死別した。生活は苦しかったが、太平洋戦争中も疎開せず、明るい色調の静物画を多数描いた。1968年、南フランスのカーニュに、1974年にはブルゴーニュ地方の農村ヴェロンに定住した。1989年、帰国し、神奈川県中郡大磯町の自宅兼アトリエにて制作を続けた。

13代 楽 惺入

1887 (明治20) 年 - 1944 (昭和19) 年
十二代弘入の長男。大正8年、家督を継承、吉左衛門を襲名。作風は、独自に各地の鉱石を研究し、楽茶碗のほかにも各地の陶磁を積極的に制作している。置物にも意欲的に取り組んだ。没後、惺斎宗左より号、惺入を賜る。